



にんじん料理対決。にんじんを多く使ったもっこすファイヤーが勝利!



町加工グループの地産地消弁当。100個がなんと約30分で完売!



「そーっとね」。キャロッピーも応援する野菜ジュース積み上げ



ジューシーなスーパーポーク「もっこす」ステーキに思わず笑顔



にんじん詰め放題100円コーナー。大人も子どもも楽しんだ

屋久島町の大自然で育ったトビウオやタンカンなどの食材も販売



針先に集中。今の季節、鍋にも最適な町の甘いにんじんを釣る



豊かな水と大地に生まれ、作り手の愛情が詰まった甘いにんじんを掘る親子。はじける笑顔がまぶしい

おいしい・楽しいをギュッと「すぎなみフェスタ」

Autumn festival
2

にんじん収穫体験は実際に土に触れて、収穫することができて良いですね。掘りだしたら止まらないくらい楽しい。すぎなみフェスタは家族みんなで楽しめるイベントなのが魅力ですね。

(左から)
米村智典さん
あこさん
もっこす
睦子さん
(沖野)



すぎなみフェスタ2014が11月8日、菊陽杉並木公園スポーツ広場で行われました。約5,000人を超える来場者があり、会場中に皆さんの笑顔が輝いていました。司会の松村奈央さんと中華首藤さん、よしもと芸人のもっこすファイヤー、メタルラックが会場を盛り上げました。ステージではにんじん釣り大会やにんじん料理対決、野菜ジュース積み上げ、仮面ライダーライブショーなどがあり、来場者を楽しませていました。近くの畑では多くの家族連れや子どもたちが大きく育ったにんじんを収穫。53の出展ブースもあり、来場者は秋の味覚や買い物などを楽しんでいました。

にんじんの里・菊陽町にみんなの笑顔が広がっていく

特集 豊かな心、伝わる熱気。菊陽町の秋の祭典

菊陽町は豊かな自然と都市、文化、芸術が共存する活気ある町です。それらは地域の人々の手で大切に守られ、育まれています。今回はそんな町の魅力を4つの秋の祭典をとおして紹介します。



祭りの気分も最高潮になり、みこしを畑へいっぱい豪快に落とす担ぎ手たち



みちがく
笛太鼓の音を響かせて回る道楽



獅子楽に合わせて舞う「馬場桶の獅子舞」



みちがく
艶やかに舞う道踊り



約400キロのみこしを担ぐ。祭りへの熱い思いが体を奮い立たせる



多くの観衆が見守る中、勢いよく落とされたみこし。歓声が沸いた



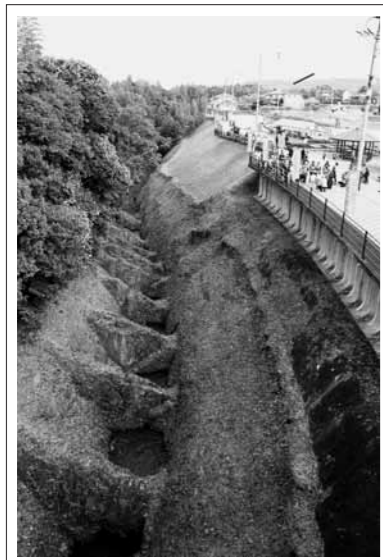
祭りに情熱を注ぐ担ぎ手。降りしきる雨の中で泥まみれに

12年に一度の巡り合わせ。郷土を旅する「お法使祭」

Autumn festival
1

600年の伝統が紡ぐ郷土と人、祭神の物語

菊陽町無形民俗文化財に指定されている「お法使祭」。ご神体(神様)を乗せたみこしが11月1日、戸次地区から馬場桶地区へ受け渡されました。お法使祭は益城町の津森神宮の神事の一つで、600年以上の伝統を誇ります。菊陽町と益城町、西原村の12地区が1年ごとに持ち回り、仮の宿「お仮屋」を建てて、ご神体を1年間安置した後、次の地区へ引き渡されます。菊陽町では戸次、馬場桶、曲手、辛川地区で12年に一度催されます。今年は馬場桶地区に伝わる「馬場桶の獅子舞」も奉納されました。この祭りは、ご神体を次の地区へ受け渡す時に、みこしを畑に落したり転がしたりすることで有名な珍しい祭り。みこしを落として転がすのは「霧で祭神が迷った姿を表す」などといわれています。担ぎ手たちは雨の中大きな声を上げてみこしを畑へ落とし、訪れたたくさんの方々の観衆を沸かせていました。



鼻ぐり大橋から望む鼻ぐり井手公園。大勢の人が鼻ぐり井手の歴史に触れた



花や雑貨、竹細工なども販売



大迫力の菊陽武蔵剣豪太鼓の演奏



寸劇「鼻ぐり井手はわたしたちの宝」で井手に水が通った喜びを体いっぱい表現する南小3・4年生



昔は大きな岩山があり、これを削って鼻ぐり井手ができた



鼻ぐり井手を案内する南小児童と真剣に話を聞く来場者。児童は協力し合って質問に答えていた



ひょっとこ踊りのひょうきんで軽快な踊りに会場は大喜び



削った厚く固い岩盤を地上へ持ち出すときのための階段が残る鼻ぐり井手



美しいメロディーが響く中、しなやかに踊るバレエダンサーたち。会場は感動に包まれ大きな拍手がなりやまない



洗練された民舞。艶やかな舞いに歓声が上がりが客席から花束が渡される



肥後てまりとステンドグラス。カラフルな色や柄が会場を彩る



きらきら輝く色とりどりのビーズに心もほぐれる



両手に2枚の小皿を持ち、曲に合わせて打ち鳴らす「鹿島のんのこ」



癒されるハワイの音楽と笑顔、フラの動きに観客も楽しい気持ちに



一音一音が研ぎ澄まされて迫力の響きに。一糸乱れぬ等四重奏曲



あふれる躍動感！リズムカルなジャズダンス



表情豊かに心に響く歌声を披露

生き続ける知恵。今と昔をつなぐ「鼻ぐり井手祭」

Autumn festival 4

鼻ぐり子どもガイドになって3年目です。緊張するけれど分かってもらえると楽しい。ガイドで将来鼻ぐり井手がもっと有名になり、これが地域活性化につながるとうれしいです。

(左から) 星川一輝さん、荒川理央さん、富永帆夏さん (南小6年)



公園では南小児童やボランティアガイドが鼻ぐりの由来や仕組みなどを説明。来場者は「一人の手で造られた鼻ぐりが400年たった今も活用されていてすごい」と感心していました。町内外から訪れた約1,200人が町の歴史を感じていたようでした。

第6回清正公さんの鼻ぐり井手祭が11月16日、南部町民センターと鼻ぐり井手公園で開催されました。センターでは「馬場桶の獅子舞」や菊陽南小児童による鼻ぐり井手の寸劇、ひょっとこ踊り、お楽しみ抽選会などがありました。熊本大学大学院の山尾敏孝教授は「似た遺構はなく、鼻ぐりは日本に一つの可能性がある」と講演しました。

400年の歴史的遺構 後世につなぐ鼻ぐり井手

感動が心を開く。新しい魅力に出会う「菊陽町文化祭」

Autumn festival 3

心揺さぶる秋の祭典 芸術・文化に触れる2日間

菊陽町文化協会主催の文化の祭典「第38回菊陽町文化祭」が11月2日・3日、菊陽町図書館ホールで開催されました。約480人が出演し、約1,700人の来場者が芸術の秋を満喫しました。

ステージでは歌謡や民舞、民舞、ジャズダンス、フラダンス、バレエなどが披露。出演者の心揺さぶる演奏や歌、踊りに会場中に大きな拍手が響きました。

ホールロビーには写真や手芸、アート、こども生け花の作品展示や茶道の実演もあり、来場者を魅了していました。また、募金箱に35,900円の善意が寄せられ、社会福祉協議会へ寄附されました。



永年在籍者表彰 酒井立身さん(下段左) 文化功労者表彰 坂本俊子さん(下段右)